

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA THE 42ND SUBSCRIPTION CONCERT



関西シティフィルハーモニー交響楽団

第42回定期演奏会 2006年9月17日 [日] 14:30
ザ・シンフォニーホール

主催 関西シティフィルハーモニー交響楽団 協賛 株式会社 ASK PLANNING CENTER

関西シティフィルハーモニー交響楽団



2006年3月19日、ザ・シンフォニーホール、第41回定期演奏会

関西シティフィルハーモニー交響楽団

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体 / 大阪文化団体連合会会員団体

1974年各大学オーケストラの卒業生を主たるメンバーとして、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年創団20周年を機に現在の団名に改称。“アマチュア精神に基づく、グレードの高い社会人オーケストラ”をモットーに、年間2回の定期演奏会をはじめファミリーコンサート等を、意欲的に開催しています。近年は指導体制の充実に力点を置き、有能なプロの先生方を指揮者や指導スタッフに招請して研鑽を積んで参りました。中でも、1998年より4年間、ズラタン・スルジッチ氏(現ドゥプロヴニク交響楽団首席指揮者)を常任指揮者に招聘し、その指導を仰いだことにより「音楽的に大きな飛躍を遂げた」との評価を内外から得ております。また組織としても「若い力」を積極的に運営面に活かし、“常に成長するオーケストラ”を目指して努力を重ねております。2004年8月に大阪府で開催された「全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会」では、開催主管団体として、当団の組織力を遺憾なく発揮し、フェスティバル成功の原動力として、連盟をはじめ全国のアマチュアオーケストラ各位から、高い評価と大きな賛辞を頂くことができました。毎週土曜日の夜、指揮者やトレーナーの先生方の指導のもと、真剣な練習を行っており、現在団員数は、約100名を有します。

関西シティフィルハーモニー合唱団

KANSAI CITY PHILHARMONIC CHORUS

昨秋の関西シティフィル・ファミリーコンサートを機に、池田市および近隣の合唱経験者を中心に結成。イタリア・オペラの合唱曲をプログラムにした同コンサート(指揮:ズラタン・スルジッチ)を成功させました。

関西シティフィルハーモニー交響楽団の友好団体として、オペラ合唱曲やミサ曲、合唱つき大交響曲など、管弦楽と合唱の共演を今後も計画しています。今回は160名を超える規模で臨みます。

チャイコフスキー

歌劇「エフゲニー・オネーギン」より ポロネーズ

ボロディン

歌劇「イーゴリ公」より ポーロヴェツ人の踊り(ダットン人の踊り)ほか

合唱 関西シティフィルハーモニー合唱団

休憩

ショスタコーヴィッチ

交響曲第10番

第1楽章 Moderato

第2楽章 Allegro

第3楽章 Allegretto

第4楽章 Andante - Allegro

ごあいさつ



阿保 幸雄 Sachio Abo
関西シティフィルハーモニー交響楽団 団長

今日は、私共の第42回定期演奏会にようこそお越し下さいました。

今回の定期演奏会で特筆すべきは、関西シティフィルハーモニー合唱団との共演が実現出来た事です。この合唱団は去年約110人のメンバーで結成され、05年11月のアゼリアホールでのファミリーコンサートでイタリアオペラガラを共演致しましたが、ハイH、ハイCを出すソプラノ、テノールがゴロゴロといるというすごい合唱団です。本日のイーゴリ公も大変なハイトーンが続く曲ですが、是非その迫力をお楽しみ下さい。

バブアゼ氏が当団の常任指揮者になられて2回目の定期演奏会を迎えました。今回は氏が最も得意とされるロシア音楽3曲

を指揮していただきます。中でもショスタコーヴィッチの10番の交響曲に対しては氏には特別の思い入れがお有りのようで、強烈な迫力を練習中から感じられました。ショスタコーヴィッチがソ連政府から受けた迫害と、グルジア(旧ソ連)人が受けたそれとの共通の想いが有るのでしょうか。その様なことを抜きにしてもこの曲は一般的にはあまり知られていませんが、歴史に残る名曲であると団員全員が感じています。バブアゼ氏の想いに応えられるような演奏を出来たらと願っています。

末筆ながら、今後とも当団に対し、温かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

チャイコフスキー 歌劇『エフゲニー・オネーギン』より『ポロネーズ』

チャイコフスキーは、生涯11曲におよぶ歌劇を作曲しており、その中で最もよく演奏される曲の1つがアレクサンドル・セルゲーヴィチ・プーシキンの韻文詩『エフゲニー・オネーギン』を題材として作曲されたこの曲です。本作品は、1877年～79年にイタリアで作曲され、特に本日演奏する『ポロネーズ』は、演奏会のオープニング曲やアンコール曲に用いられ、クラシックファンには馴染みの曲となっています。

物語は、社会的矛盾の中で厭世的になったオネーギンが農村に滞在時、田舎地主の娘タチアナがオネーギンに恋をする。タチアナの純愛に対し、オネーギンは冷たくあしらってしまう。さらに友人レンスキーの妹のオリガを口説こうとするのがきっかけで、レンスキーと決闘になり、レンスキーを殺してしまう。良心の呵責に悩むオネーギンは26年間の放浪生活の末、親戚グレーミン公爵の屋敷の舞踏会で公爵の妻となったタチアナに再会する。再会したオネーギンはやっとタチアナを愛していることを気づき、駆

け落ちを迫るが、タチアナはオネーギンを愛しているながらも愛を拒絶する。タチアナに愛を拒まれたオネーギンは、絶望のどん底に突き落とされる。とあまり明るい物語では無いが、本曲『ポロネーズ』は、首都ペテルブルグの社交界、グレーミン公爵の舞踏会の場面「第3幕第1場」で演奏される。

この曲は、演奏会のはじまりにふさわしく、当団自慢のトランペットの華やかなファンファーレで始まり、弦楽器のリズミカルな序奏を通りtuttiにてメイン主題が始まる。

間奏部では、木管楽器の緻密なアンサンブル、チェロの妖艶な歌いなど当団のヴィルトーゾ振りを楽しんで頂けることでしょう。また、当団常任指揮者ギョルギ・ハバアゼの指揮にも注目です。

華やかな曲からはじまり、関西のアマチュアオーケストラをリードする関西シティフィルの定期演奏会をとくご覧あれ!

小野寺慶太(ヴァイオリン)

ポロディン 歌劇『イーゴリ公』より『ポーロヴェツ人の踊り』(ダツタン人の踊り)ほか

数々のエキゾチックな名曲を生んだアレクサンドル・ポロディン(1834～1887)は、ロシア国民楽派「5人組」の一人として有名ですが、高名な化学者でもありました。彼の作風は、ドイツ・ロマン派の流れを汲んだしっかりした音楽構成に民族色豊かな綺麗な旋律を織り交ぜる手法にあります。

ポロディンの代表作『ダツタン人の踊り』(他は、歌劇『イーゴリ公』からの抜粋です。当時のロシア国民楽派の作曲家は、音楽の題材としてロシアの歴史や人物を用いる事が多く、ポロディンも中世ロシアの英雄・イーゴリ公の話に着想し、1869年に作曲を始めました。しかし、18年以上の歳月をかけても全曲は完成せず、未完のまま彼は他界します。その後、彼の生前の草稿を元に、「5人組」の同胞リムスキー・コルサコフとその弟子グラズノフによって大きく補筆され、1890年ようやく歌劇が初演されました。

時は1185年のロシア南西部、イーゴリ公率いる遠征軍が領土を荒らす異教徒ポーロヴェツ人(征伐に向かったものの戦いに敗れ、壊滅。イーゴリ公は敵方の捕虜となります。しかし、ポーロヴェツ人のハン(族長)、コンチャークは捕らわれの身となってもなお立派なイーゴリ公に敬意を表し、「客人」として宴をもてなす。彼を手厚くもてなします。

本日演奏するのは、まず『ダツタン人の娘達の合唱』です。これはポーロヴェツ人の娘が慣れぬ土地での野営生活に疲れた様子を歌った曲です。間髪いれずに、今度は管弦楽のみの『ダツタン人の娘達の踊り』という明るく賑やかな舞曲を演奏します。そ

の後、見張り兵達が重々しく、畳みかけるように『ダツタン人の見張り兵の合唱』を輪唱します。この合唱が遠ざかると、あの有名な『ダツタン人の踊り』が始まります。はるか東方から連れてこられた女奴隷達が、哀愁漂うメロディにのせて、「風のつばさに乗って、故郷に飛んで行け、はるかなる祖国の歌よ...」と歌います。望郷の念がこもった歌を寂しく歌い踊る娘達の姿に誰も心を打たれる劇中最も美しいシーンです。物悲しい歌は一変し、軽快な出だしから勇壮な舞曲に変わっていき、全員で「我らの強きハン・コンチャークを称えよ!」と力強く歌います。また最初の物悲しい歌が戻るものの、再び力強い舞曲に戻り、最後は大合唱になり、フィナーレを迎えます。

普段、この曲は管弦楽単独で演奏されることが多いのですが、今回はできるだけ本場の雰囲気や皆様に味わって頂けるように、ロシア語の歌詞による合唱を付けて演奏致します。関西シティフィルと合唱団の総勢260名余がステージ上で心をひとつにし、エネルギーあふれる演奏ができればと団員一同強く願っています。

山中聡子(クラリネット)

ポーロヴェツ人：11世紀頃～13世紀中盤にロシア南西部を支配して当時のロシア人を脅かしたトルコ系遊牧民族で、モンゴル系の『ダツタン人』とは違う民族です。よって『ダツタン...』の曲名は、本来『ポーロヴェツ...』とする方が正しいようです。

ショスタコーヴィッチ 交響曲第10番

ベートーヴェンの交響曲第3番《英雄》は、フランスの政治家・ナポレオンを讃えて作曲された。のちにナポレオンの皇帝即位がベートーヴェンを激怒させることになるが、英雄交響曲はどこまでも雄々しく理想的な英雄像を描いた。ショスタコーヴィッチの交響曲第10番は、ソヴィエトの政治家・スターリンにまつわる交響曲である。ただしそれは、スターリンへの賛歌ではない。

ソ連の初代指導者・レーニンの死後、スターリンが権力を掌握していった1920年代後半、ショスタコーヴィッチは天才作曲家として楽壇に登場する。1930年代後半、史上悪名高い「大粛清」で独裁者・スターリンが2000万人以上ともいわれる人々を殺戮していた時代、作曲家は名作をつぎつぎに生み出し、その才能を開花させていった。

しかし第2次大戦、そして冷戦を背景に緊迫してゆく情勢のもと、独裁者と全体主義国家は芸術家をつねに監視した。一歩道を踏み外せば、待っているのは収容所。あるいは処刑である。ショスタコーヴィッチも国家ぐるみの批判(いわば脅迫)を受ける。仕方なく、第5交響曲《革命》、《森の歌》などの作品で権力に「弁明」する。天才のイマジネーションには全体主義国家による管理の轡がつねにはめられたのだ。ショスタコーヴィッチ作品に頻出する恐怖、不安、孤独、皮肉、それらに不思議と同居する楽天性は、こうして醸成される。そして1953年、ついにスターリンが死去。その年、第10番は書かれた。

『ショスタコーヴィッチの証言』という有名な書物がある。作曲家の真実の声を記録したという触れ込みだが、ニセモノも批判される。しかし第10番を聴いていると、その音楽から立ちのぼるイメージにこれほどぴったりとした文章はないとすら思える。

「それ(第10交響曲)はスターリンとスターリン時代について書いたものであった。第二部のスケルツォは、おおざっぱに言って音楽によるスターリンの肖像である」ヒトラーが犯罪者であることははっきりしているが、しかし、スターリンだって犯罪者なのだ。ヒトラーによって殺された人々にたいして、わたしは果てしない心の痛みを覚えるが、それでも、スターリンの命令で非業の死をとげた人々にたいしては、それにもまして心の痛みを覚えずにはいられない。拷問に掛けられたり、銃殺されたり、餓死したすべての人々を思うと、わたしは胸がかきむしられる。ヒトラーとの戦争がはじまる前に、わが国にはそのような人がすでに何百万といいたの

である「わたしの交響曲の大多数は墓碑である。わが国では、あまりにも多くの人々がいずことも知れぬ場所で死に、誰ひとり、その縁者ですら、彼らがどこに埋められたかを知らない」

ナチズム、大粛清、大東亜共栄圏、中東、文革、ベトナム戦争、カンボジア大虐殺、あるいは現在進行形の悲劇・金王朝の北朝鮮…。政治体制の生み出す恐怖と悲劇は、時代や国境を越えて通底する。交響曲第10番は、二十世紀の狂気と悲惨を告発する音楽によるドキュメントであり、その音響が描き出す世界は悲しくも普遍である。無辜の犠牲者たちへのレクイエム、それが交響曲第10番である。

第1楽章 凍てつくロシアの大地のなか、物語は足どり重く始まる。はりつめた空気感。やがて音楽の奔流はうねりだし、怒涛のごとく展開をみせる。ショスタコーヴィッチの振り上げた拳が眼前に浮かぶ。嵐は過ぎ去り、ヴィオラによる怨嗟の独白に戦慄する。

第2楽章 疾走するアレグロが、恐怖と不安をあますところなく描きつくす。

第3楽章 ドミトリ・ショスタコーヴィッチの音符による自署「DSC H(レミシ)」が印象的に登場する。ホルンが執拗に描く音型「EAEDA(ミラミレラ)」は、作曲家が当時思いを寄せた女性「エミローラ」の名前をもじったものといわれる。スターリン時代を描くという硬派な文脈に、きわめて私的な思いをすべりにませたミステリアスな音楽。

第4楽章 ふたたび深き淵より。木管によるきれぎれの哀歌が中断されると、音楽は無窮動になる。頂点では自署音型「DSC H」が強烈に刻印される。ラストは不思議と軽妙な調べに転じ、一気呵成に全曲を閉じる。スターリン批判?だれがそんなこと書いた?と作曲家はとぼける。第5交響曲のような「勝利感」なぞ御免こうむる、といわんばかりである。

ソ連崩壊から15年。作曲者が逝って31年(生誕100年)。奇しくもスターリンと同郷の指揮者・ババアゼは「この曲にはとても近いものを感じる」と練習中に何度もつぶやいた。ババアゼ・関西シティアフィルによるショスタコーヴィッチの世界に、ご堪能あれ!

坂元正三(チェロ)



George Babuadze

指揮 | ギオルギ・バブアゼ

BABUADZE

関西シティフィルハーモニー交響楽団

VIOLIN

西田美音子
稲谷亜季子
稲葉宏己
岩井哲也
上阪美保
岡嶋鈴代
小野寺慶太
加藤藤孝
加亀本裕史
川神盛田
北村向津
佐島隅谷
豊中川
中谷道由
中名合波
西川理子
西村真悠
西村敏美
橋花平
藤森山吉

VIOLA

秋山久雄
井戸江義訓
入江田戸隆
太田真紀子
岡野惠子
小川野健介
田福端景子
田中本文
福松田光
宮崎友佳
永藤洋平
森岡本涼

VIOLINCELLO

安彦郁
阿保保雄
岩上幸倫
上野真紀
奥野平人
小野田素正
坂元大
豊島三
富橋本誠
廣瀬美恵子
藤井綾

DOUBLE BASS

安彦哉
稲葉杏子
隅谷正一
長岡正一
萩尾善正
安渡近
大川一
田宏明
田亜矢子

FLUTE

姜愛順
芝野均
多田博史
宗吉亜希子

OBOE

岡田啓
勝山貴美子
酒井洋
西山健市
波留ひとみ

CLARINET

打田正樹
栗山明子
芝野範子
山中聡

FAGOTT

一ノ瀬圭子
竹内郁夫
山科みどり
前田肇

CONTRA FAGOTT

片寄伸也

HORN

安彦高志
織田克洋
中西谷星
廣山順
山橋理子
山科幸生

TRUMPET

残西熊祐治
廣川橋倫史
森岡誠修
山田浩之

TROMBONE

柏岡亨
金山昌信
正岡明
松田斉

TUBA

藤川健

PERCUSSION

橘淳士
田村千春
富平計次
山瀬光代
吉原健一
田原健一
吉田恭子

HARP

鈴木貴子

団長 阿保幸雄
副団長 柏岡亨
運営委員長 山科幸生
チーフパトリオーター 廣橋誠司
(兼インスペクター)
インスペクター 小野寺慶太
総務 岡坂元樹
富元正誠
会計 田真紀子
上村千春
人事 山本真弓
IT 岩田倫和
ライブラリアン 井戸義訓
渉外 森修二
楽器 西川倫史
団費 田中景子
広報 細野巖
友の会 佐向恵子
会計監査 長岡豊
相談役 松田斉

トレーナー

池田重一 | 中谷葉子
岩井英樹 | 橋本橋本 | 谷本真弘
高昌林 | 山口村 | 村松洋
谷野里 | 本根 | 松洋
田本根 | 松理

...コンサートミストレス
コンサートマスター

...パトリオーター

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 第5回ファミリーコンサート

2006年 11 | 19 [日]

15:00開演予定

池田市民文化会館「アゼリアホール」

指揮 高谷光信
 合唱 関西シティフィルハーモニー合唱団
 合唱指揮 中村勝栄

リムスキー=コルサコフ：交響組曲「シェヘラザード」
 チャイコフスキー：バレエ「眠りの森の美女」ハイライト
 ボロディン：歌劇「イーゴリ公」より「ポーロヴェツ人の踊り」
 タンゴ人の踊りほか
 [詳しくはパンフレットに折り込みの案内チラシをご覧ください]

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 第43回定期演奏会

2007年 3 | 18 [日]

14:30開演

ザ・シンフォニーホール

指揮 栗田博文

ブラームス：交響曲第2番 二長調
 ブラームス：ヴァイオリンとチェロの為の二重協奏曲
 独奏 ギオルギ・バプアゼ(ヴァイオリン)
 ギア・ケオシヴリ(チェロ)
 シベリウス：交響詩集「レミカイン組曲(4つの伝説曲)」より
 レミカインの帰郷

関西シティフィルハーモニー交響楽団 | 宮崎バレエスタジオ依頼演奏会

2007年 6 | 3 [日]

門真ルミエールホール

指揮 高谷光信
 バレエ 宮崎バレエスタジオ

チャイコフスキー：バレエ「眠りの森の美女」全幕

団員募集の
お知らせ

ヴィオラ
 コントラバス
 ファゴット

急募

練習日時 毎週土曜日 夜6:30~9:30
 練習場所 北出音楽事務所(JR・京阪「京橋駅」から徒歩10分)
 お問い合わせは事務局まで 072-958-4585]
 なお、当団のホームページでも最新の団員募集情報を公開しております。

関西シティフィルハーモニー交響楽団友の会
 会員募集のお知らせ

当団では「友の会」の会員を募集しております。会員になられますと 当団主催演奏会のご案内 特別優待価格でのご入場 友の会特別席のご用意 等の特典があります。入会金、会費無料!

友の会会員 お申し込み方法

*はがきでの演奏会のご案内をご希望の方.....パンフレットに折込の申し込み用紙にてお申し込みください。お問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ(事務局 072-958-4585)

*メールでの演奏会のご案内をご希望の方.....只今、メールでの演奏会のご案内およびインターネット上でチケットのお申し込みができるよう準備中です。詳細は当団ホームページをご覧ください。折込の申し込み用紙ではお申し込みできませんので、ご注意ください。

・友の会のみなさんの個人情報は、演奏会のご案内など、当団の諸活動に關係する用途以外には、一切利用致しません。

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kcpo>

関西シティフィルハーモニー交響楽団ホームページのご案内

関西シティフィルハーモニー交響楽団のホームページは「クラシック音楽情報センター」(<http://www.musicinfo.com>)より、サーバーの無償使用の協力を得ています。